

大震災総追悼法要

1・17いのちの研修会

一月十七日、阪神・淡路大震災から、十五年目のこの日、神戸別院で「阪神・淡路大震災物故者総追悼法要」が勤まった。震災で亡くなられた方々を偲んで集まれた参拝者は三百名を超え、本堂は満堂となった。

法要は午後一時半より始まり、正信偈のお勤めが堂内に響く中、参拝者はお焼香をされた。法要の後、須磨ノ浦女子高校の永野友貴さん、



講演されるバイマーヤンジン氏

休憩を挟み、午後二時四十五分からは、震災の記憶を風化させないため、そして、震災で亡くなられた方々の命日をご縁として、あらためて「いのち」について問い直すことを目的に「1・17いのちを考える研修会」が開かれた。講師には、チベッ

ト声楽家・拓殖大学客員教授のバイマーヤンジン氏をお迎えした。日本人のご主人との結婚を機に一九九四年に来日され、すぐに震災を経験されたこと、炊き出しや、歌での支援のこと、四川大地震では故郷の家族・親族が被災され、離れた地であることから、安否が判らなく不安で仕方がなかったこと、兄弟が命がけで歩いて子どもをの安否を確認に行ったこと、家族が生きていた、ただそれだけで本当に満足だったことなど、当時の思いを話された。また、ユーモアを交えて日本での生活を通して、異文化の中で人のつながり・コミュニケーションの大切さを話され、その中で、故郷に電話が引かれたことで故郷の家族と連絡が取れる様になったこと、そのお陰で父親の最後にも立ち会えたことなどを話された。そして、日本での孤独死・自死の現状について、「なぜ日本人は、家族に電話しない、連絡しないのか？死んでしまっただけでは話が出来ない、生きて、元気にしているから電話をする。ただ一言で良いではないか。その中で、孤独死や自死を防止することが出来たのではないですか。現代文明は決して人間のきずなを薄めているわけじゃないです。人間の更なる交流・コミュニケーションを取れるようになっているはずですよ。」チベットでは人が会いに行くのに山を越えて何日もかかることがある、だから、亡くなくても判らなかつた・知らなかつたということになるが、日本では絶対に防げるはずですよ。私は強くそれを信じています。ただ行動するかどうかのことです。」と話された。

異文化交流を通して、人間というのは受け入れられるということから全てが始まること、身をもって体験した人間のつながりの話の中で、日本社会が抱える問題の解決への一筋の光を見た研修会となった。

お腹一杯になったら今度は遊び。コマ回しやボールアート、スーパードールすくい(協賛/浜屋)などなど、子ども達は大はしゃぎだった。一時半からは、プロのマジシャン、ジルバ中井氏による手品ショーで、大人も子どもも大喜びだった。

手品の後は、親の部と子どもの部で会場を別れ、三階の本堂では季平博昭師(基幹運動推進相談員)による「法話、一階のホールでは少年連盟スタッフによる劇「ぼうぎの教え」が上演された。子ども達は本格的な衣装、BGMの劇にびっくりに。閉会式では、皆で恩徳讃を斉唱して、今年の報恩講子ども集いは終了した。

最後には蓮華会副会長出田求さんの畑で採れた大根をお配りし、手にした大きな大根に子ども達は驚いていた。

初参加の大西司龍くん、二回目参加の大西司馬くんの兄弟は「ゲームや手品がとても面白かった、また来年も来たい」と満足げに話した。

報恩講 子どもの集い

十二月二十六日(土)報恩講子どもの集いが神戸別院で行われた。集まった子どもは百二十五人、保護者とスタッフを含めると合計二百六十九人での賑やかな報恩講となった。

午前中は三階の本堂で報恩講の法要。子ども達による献灯・献華・献香・献供の後、全員で正信偈をお勤めした。来賓の挨拶の後、菊川義秀少年連盟委員長の法話があり、法要の部は終了した。法要の次は、お待ちかねの昼食。少年連盟スタッフを中心に、仏教婦人会、寺族婦人会、青年僧侶の会、仏教壮年会、門徒推進員の皆さんが、カレー・お餅・焼きそば・ポップコーン・しゅうまい・チョコフルーツなど、沢山の手作りのお食事をおもてなされた。

お腹一杯になったら今度は遊び。コマ回しやボールアート、スーパードールすくい(協賛/浜屋)などなど、子ども達は大はしゃぎだった。一時半からは、プロのマジシャン、ジルバ中井氏による手品ショーで、大人も子どもも大喜びだった。

手品の後は、親の部と子どもの部で会場を別れ、三階の本堂では季平博昭師(基幹運動推進相談員)による「法話、一階のホールでは少年連盟スタッフによる劇「ぼうぎの教え」が上演された。子ども達は本格的な衣装、BGMの劇にびっくりに。閉会式では、皆で恩徳讃を斉唱して、今年の報恩講子ども集いは終了した。

第八回布教大会

二月二日(火)、兵庫教区布教団主催の布教大会が開催された。

大会は今年で八回目を迎え、神戸別院の本堂には二百名ちかくの人々がお聴聞に詰めかけ、満堂の中で布教大会となった。

大会の司会・進行は帆保真澄さん(朝来組極楽寺)。真宗宗歌斉唱の後、松村彰道教務所長(布教



熱心にお聴聞する参拝者

出講者の持ち時間は各々一座三十分。それぞれの出講者が各々の経験・味わい・語り口で、仏徳を讃嘆され、法味ゆたかに話された。また、ゆかり作業所(社会福祉法人いづみ福祉会)のパンとクッキーの出張販売もあり、休憩時には買い求める人で賑わった。

最後は全員で領解出言し、増井淨見布教団副団長(赤穂北組浄蓮寺)の挨拶で大会は終了した。

参拝者は、浄土真宗の要の話を聞けて有り育ての世界

キッズサンガ研修会

真剣に模擬花まつり

二〇一〇(平成二十二年)一月二十六日(火)本願寺神戸別院にてキッズサンガ研修会が開催された。

今回は「実践キッズサンガ(キッズサンガをやってみよう)」をテーマとし、花まつりを題材とした研修会を行った。



念珠編みに一所懸命

最初に研修として少年連盟指導者の釋氏智洋氏(阪神西組源光寺)にキッズサンガとはどのような事をするのか、どのように進めていくのかを実際の体験を元にお話しを頂いた。その後、実際に「花まつりキッズサンガ」として模擬プログラムを体験。これまでキッズサンガ開催に関

花御堂、仏具類も簡単にダンボールなどで手作り出来る事が分かり、進行台本を作ることにより参加者の皆さんからも「分かり易く参考になった」との意見を頂いた。

また、プログラムをより発展させる材料の一つとしてゲームやクラブの紹介があり、参加者は少年連盟の長島唯乘氏(神戸東組圓光寺)・村上かえで氏(宍粟組西光寺)・アドバイザー指導のもと念珠編みやキーホルダー作りに真剣に取り組んでいた。

最後にこれからの寺院活動事業の一つとして、全寺院でのキッズサンガ行事の実施に向け教区諸団体一丸となって取り組むことが確認された。